江戸時代前期の帯の多様化は、特に着物姿に決定的な影響を与えました。元々は身体に着物を沿わせるためのものに過ぎなかった帯が、時代とともに装飾の役割を持ちはじめ、着こなしの重要なポイントをしめるようになりました。

今回の展示では江戸時代から昭和にかけての帯を中心に、女性が帯を締めている姿が表わされた作品もあわせて展示いたします。装飾としての帯の美しさや、高度な技術、また、帯を愛した当時の女性達の心を感じ取って頂ければ幸いです。

黒繻子地牡丹唐草模様帯（明治・19世紀）

金地松紅葉波模様錦帯
（明治～大正・19～20世紀）

黒縮緬地花車鳳凰橘梅模様振袖
（大正～昭和・20世紀）